

～心豊かに生きるために～

今回は、「青少年の主張」の県大会に引き続き九州大会でも最優秀賞に選ばれ、東京で行われた全国大会に出場し優秀な成績を修めた筑紫奈美さんの文章を掲載します。

この文章にはお母さんの素晴らしい生き方に学び心豊かに成長する奈美さんの姿が生きて描かれています。人は、自分の得た情報や経験により物事に対する意識や考えを形成していきます。それだけにこのようなプラス思考の経験は、本人にとっては勿論貴重なものですが、それに接する周りの人にも大きな示唆になると思います。

「私のポジティブな先生」

産山中学校 2年 筑紫 奈美



私の母は中国出身だ。私の父が母の故郷に旅行した事で結婚し、現在、日本の地で一緒に暮らしている。

日本に来た当初は違う言語を使う国に嫁いできたことで何を言っているのか分からず、覚えることにさぞかし苦労した事だろう。実は私の父は中国語は話せない。ジェスチャーとか中国語の話せる親戚とかに少しずつ教えてもらったりしてコミュニケーションをとっていたらしい。母は日本に嫁ぐと決めて様々な努力をしたのだろう。

では、私はどうだろう？もし私が母のような言葉の分からない状況になったら、1本のもろいシャープペンシルの芯みたいに圧力をかけたらポキッと折れる気がする。母はすごいと思う。中学生になり母を尊敬する気持ちが増していった。

そして、去年の中1の秋休み、母と中国へ旅行に行った。母にとっては久しぶりの中国である。母の出身地で私が感じた事は、とにかく人が優しくった事だ。母の家族は日本から来た私をとて可愛がってくれた。食事の時には、「これすごく美味しいのよ。」と勤めてくれたり、「ごま団子、好きだったよね。」と、私の好きな食べ物を知っていて注文してくれたりした。なにより中国の人は、人のしてくれた小さな親切には必ず「謝謝」と言う。私はそんな優しい心のあふれる上海が好きになった。その時の中国の人々とのふれあいで母の長所がより分かった気がした。

母は街中で私のように恥ずかしがりながら歩くのではなく、堂々と歩く。いつもポジティブに生きている。気さくだから、話しかけにくいと思う人はいないと思う。いつも堂々としている母はきっと自分に自信を持っているのだろう。それはきっと中国の人達と同じなのだろう。そんな上海で育った母は幸せだなと思った。

母の生き方の強さを教えられたできごとがある。つい最近のことだが、クラスの中でこんな会話が私の耳に入ってきた。「外国の人と結婚するとしたら中国の人は嫌だね。なんとなく。」1人が言うと、「うん、そうだね。」という内容だった。近くで聞いていた私は、(そんなこと言わないでよ。中国にもいい人が沢山いるのに。どうして?)と思った。いつもの母の姿が目に見え悲しさがこみ上げてきた。

そのことはクラスで話し合った。みんなは、「好きな人がいたらどこの国の人でも良いのにつまらないことを言ってしまった。」と、涙をまじえて、色々話し合うことができた。その頃に、中国産の食品のことがよく話題に出ていたのでそんなことを言ったのかなと思った。私は、どこの国だからと人を比べるのはおかしいと皆が考えてくれたことがうれしかった。

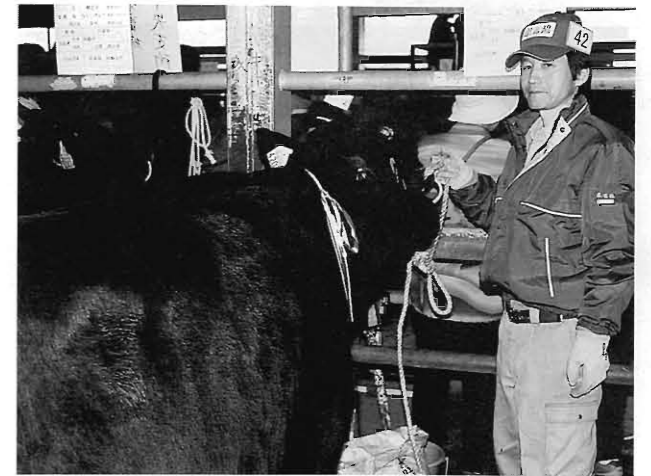
私は、この出来事を正直に母に話した。すると母は、「テレビで生活が大変な人がいつもとりあげられているから仕方がないって、泣くな！」と言った。「うん、ごめん。泣かない。」手で涙をふきながら私が言うと、「ちゃんと話し合っただけ良かったね。中国を誤解する人も少し減ったと思うし。だけど泣くなんてまだまだだ。強くなれ！」と優しく力強く言ってくれた。私は母のこの言葉こそ、つらい事や苦しい事にもとらわれずポジティブに考える母の強さのように感じた。

生きるとは何だろう。私は生きることは目標を決めて、目標に向かって進むことだと思う。どんなに先がなくても「自分にはできる。」というポジティブな考え方をもっていたら自然と乗り越える勇気がわいてくると思う。きっと私の母もポジティブな考え方をもち、日本語をマスターし日本で暮らすことをためらわなかったのだろう。母の生き方を手本として、何事も前向きに考えていきたい。私にとって母が第一の先生だ。

熊本県内の自慢の牛が集結！

～第38回熊本県畜産共進会～

11月1日(日)、熊本県家畜市場(大津町)にて「第38回熊本県畜産共進会」が開催されました。このイベントは、熊本県畜産農業協同組合の主催で行われ、熊本県内の畜産の振興と安心で安全な畜産物生産の向上、更にはふれあい体験等を通じて消費者に身近にある畜産業を知ってもらうことを目的に開催されています。当日は秋雨により屋内会場で開催され、褐毛・黒毛和種の肉用種牛部門83頭の他に、種馬部門15頭・種豚部門18頭・肉牛59品・飼料作物16品の比較審査が行われました。本村からも、黒毛和種部門育成1部に山鹿区の渡辺和広さん(下平川)の所有する「かねひめ4号」が出品され、優秀賞に入る健闘が見られました。



これからの滞在交流型観光を目指して！

～阿蘇ゆるっと博産山村
実行委員会の取組みについて～



10月31日(土)に田尻地区において阿蘇ゆるっと博産山村実行委員会(井 威夫会長)主催によるグリーンツーリズム視察研修団体の受入案内が行われました。田尻地区を訪れたのは佐世保市で今後エコ及びグリーンツーリズムの案内人として活動を予定している14名で、初めて訪れた産山村で秋の深まりを見せる池山水源や民宿村を含む周辺の史跡や観光ポイントを散策しました。今回案内人として会長の井 威夫さん、ホテルの会代表の森本幸隆さん2名が初めて参加されましたが、事前に

遊歩道の下刈りを行ったり、散策コースの選定・検討を行うなど、田尻地区を知ってもらうための準備を整えてきました。豆腐やおはぎの試食、ハーブティーの試飲など、ただ見るだけではない体験メニューを取り入れたプログラムと両名が紹介する地域の歴史や特徴を踏まえた丁寧な説明に参加者も聞き入っていました。



このコーナーでは、今月1歳の誕生日を迎える“むらの宝”を紹介します。



12月27日生まれ

☆鈴木 しえちゃん

父：康隆さん
母：純さん 次女
(大利団地)

●名前にこめた思い

二人目は「しえ」と決めていたので、しえです。ひびきやしえという名前がかわいかったからです。父・母・お姉ちゃんの3人で決めました。

●お子さんへのメッセージ

みんなで仲良く！健康でのびのびと育てね。

●村のみなさんへ一言！

みなさん、よろしくお祈りします。